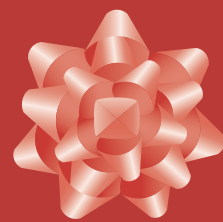


の功績をたどる

市では、市民または市に縁故の深い方で、市に功労のあった方、また広く社会の進展・学術文化の興隆に貢献した方のうち、その功績が特に顕著である方に対し、名誉市民の称号を贈り、市民の敬愛の対象として顕彰しています。

第16回 市川の文化人展



名誉市民記念 中山忠彦展

市では、ゆかりのある文化人や芸術家を広く紹介するために「市川の文化人展」を開催しています。今回は、平成26年に市制施行80周年を記念して、新たに名誉市民として顕彰された洋画家・中山忠彦氏をご紹介します。

中山忠彦氏は、1935(昭和10)年福岡県に生まれ、大分県で育ちます。高校卒業後、画家を志し上京。故・伊藤清永氏に師事し、日展や白日会を中心に活躍しています。

市では13年ぶりの個展開催となり、近年の大型作品を中心に、デッサンやリトグラフなども含め約20点を展示します。



中山忠彦氏



▲「MADAME YOSHIE NAKAYAMA」(1992年)第24回日展出品



▲「45年目の良江」(2008年)第40回日展出品



▲作品が生み出されるアトリエ

日 2月14日**土** 3月15日**日**
午前9時30分～午後4時30分
(入館は30分前まで)
休 館日 月曜日
場 芳澤ガーデンギャラリー
¥ 一般500円、シルバー(65歳以上・団体(25人以上)400円、中学生以下無料※障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1人無料。エコポ満点カード1枚で、1人1回入場可。
〈関連イベント〉
会期中、入館者が参加できるイベントを行います。
●中山忠彦ギャラリートーク
作家本人によるギャラリートークを開催します。中山氏の魅力に直接触れる貴重な機会です。
日 2月21日(土)午後2時
人 先着50人





炎の人 式場隆三郎 — 医学と芸術のはざまで —

文学ミュージアム 企画展

文学ミュージアムの企画展では、平成11年に名誉市民として顕彰された精神医学者の式場隆三郎氏をご紹介します。

式場隆三郎氏は1898(明治31)年新潟県に生まれ、1936(昭和11)年に国府台病院(現・式場病院)を開院し、精神科医師としての職務の傍ら芸術家の研究、民芸運動、文筆など多種多様な事業に携わりました。中でもゴッホの研究に関しては、当時第一人者として知られていました。享年67歳。

本展では、式場氏の果たした日本におけるゴッホ受容の役割を中心に、民芸運動、山下清の後援など、業績の中核を約250点の資料から紹介します。

〈展覧会の見どころ〉

- ゴッホ関連資料
- 時代を超えて読み継がれる著作「^{にしょうていきたん}二笑亭綺譚」
- 式場氏の原点ともいえる「民芸運動」で深められた交友関係
- 美しい装丁の著書



▲複製画など、式場氏が所蔵していたゴッホ関連資料を展示



式場隆三郎氏

▼民芸運動を通じて親交を深めた
河井寛次郎作「三色打楽扁壺」
(1962年ごろ)



装丁にこだわった▶
「二笑亭綺譚」



▲「二笑亭綺譚」の木村莊八画
挿絵原画初公開



日 3月14日(土)～5月31日(日)
平日 午前10時～午後7時30分
土日曜日、祝日 午前10時～午後6時
(入室は30分前まで)
休館日 月曜日(5月4日(祝)は開館)、3月31日(火)、
4月30日(木)、5月7日(木)・29日(金)
場 メディアパーク市川 文学ミュージアム
¥一般300円(240円)、65歳以上240円、高校生・
大学生150円(120円)、中学生以下無料
※(一)は25人以上の団体料金。障害者手帳をお持ち
の方と付き添いの方1人無料。



〈文学ミュージアムと 東山魁夷記念館の相互割引〉

1 館目の利用済みチケットで2 館目の
観覧料が2割引きになります。
※65歳以上の方は割引引きに代えてプ
レゼントを差し上げます。

〈関連イベント〉

期間中、多数の関連イベントを行いま
す。詳しくは市公式Webサイトなど
お知らせします。

●講演会「多才の人 式場隆三郎」

講 風野春樹氏(精神科医師・作家)

●担当学芸員による展示解説

問 032033334 文学ミュージアム

二人の名誉市民

文化・芸術の分野で幅広く活躍し、
多大な貢献をした名誉市民のうち、
昨年に名誉市民となった
中山忠彦氏、
今年、没後50年を迎える
式場隆三郎氏、
二人の名誉市民の展覧会を
開催します。
春の訪れとともに、
市川市の誇る名誉市民の
足跡と偉業をご鑑賞ください。

中山氏の多くの作品は、アンティークドレスを身にまとう優美な女性像で知られています。女性の美しさを追求するとともに、その確かな写実力で人物の豊かな内面性をも表現し、高く評価されています。二十代のころは、裸婦を中心に描いていた中山氏ですが、1965(昭和40)年の結婚を機に、良江夫人をモチーフとした着衣の女性像へと作品は大きく変化します。
数時間、続けて仕事をすることもあり、その間、モデルを務める良江夫人は同じポーズを保ちます。文字通り共同制作と語る二人の歩みは、間もなく50年を迎えようとしています。



▲良江夫人を描く中山氏の姿が鏡に
映る作品「トワ・エ・モア」(2010年)

●ギャラリートコンサート

日 2月28日(土)午後2時～3時
演奏 佐々木萌絵(フルート)、石丸瞳(ハープ)
日 3月8日(日)午後2時～3時
演奏 中川直子(バイオリン)、ピーティ田代櫻(チェロ)
人 先着各50人

●お茶席(席500円別途)

日 2月21日(土)、3月7日(土)午前10時～午後4時

問 030080820 文化振興課